

北陸におけるチューリップ生産の歩み

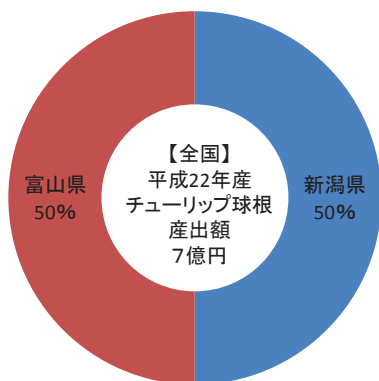
- 新潟県、富山県とも県花が「チューリップ」であることが示すとおり、両県では、チューリップ生産が盛ん。球根の産出額は両県で全国シェアの100%（富山県50%、新潟県50%）、切り花では新潟県が全国シェアの52%を占める（22年産産出額）。
- 富山県ではチューリップの新品種の育成が盛ん。富山県農林水産総合技術センター園芸研究所にはチューリップ遺伝資源センターが併設されており、現在2,000以上の品種を収集・保存。1品種の開発に20年以上の歳月をかけ、これまでに「黄小町」、「夢の紫」など31種が登録され、「黄小町」はオランダでも生産。

《富山県が品種登録したチューリップ》

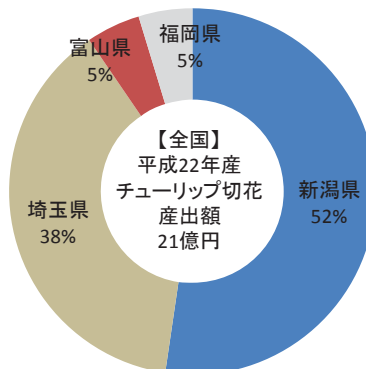
年次	内容
昭和40年代後半～	新潟・富山県でチューリップ切り花の栽培が始まる
昭和63年	オランダ産チューリップ球根の輸入自由化
平成4年	新潟県のチューリップ切り花の産出額は全国1位
平成22年	チューリップ球根の産出額は新潟・富山の両県あわせてシェア100%



富山県では31種のチューリップの品種登録がされており、なかでも黄小町は富山県で最も生産され、オランダで特許を取得し栽培も行われている。



資料：農林水産省統計部「生産農業所得統計」



資料：農林水産省統計部「生産農業所得統計」

